

## カシマサッカースタジアム・新スタジアムプロジェクト発表のお知らせ

茨城県、鹿嶋市、鹿島アントラーズは2026年2月12日（木）、新スタジアムプロジェクトに関する記者会見を行い、現スタジアム隣接地の「ト伝の郷（ぼくでんのさと）運動公園」（鹿嶋市）を建設予定地とし、茨城県が主導する公設による新スタジアム整備を進める方針を決定しましたので、お知らせいたします。

今後は三者で連携しながら、具体的な計画策定と検討を進めてまいります。

### 【記者会見 発表資料】

当日発表の資料詳細については、以下のリンクよりご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/chikei/keikaku/stadiumpi/260212.html>

### 【発表した主な方針】

#### ■背景とスキーム：持続可能な運営に向けて

建設から30年以上が経過した現スタジアムは、施設の老朽化が進む中、年間約8億円の修繕・維持管理費が必要となっており、安全確保の観点からも、県にとって大きな課題となっています。

これまで鹿島アントラーズが中心となり、県や市と共に新スタジアム整備の検討を推進してまいりました。

しかし、建設費の高騰など、想定を超える市況の変化も踏まえながら、プロジェクト実現に向け、さまざまな選択肢を模索した結果、アントラーズから県へ、スタジアムは公設としつつ、建設費の一部や運営・維持管理にアントラーズなど民間活力を導入するという提案があったところです。

県としても、施設の老朽化が進み、さらなる維持管理費の増加や、安全性確保の面での懸念が大きくなることが想定される中、現スタジアムを維持するより、新スタジアムを整備する方が中長期的にみてもメリットが大きいと判断いたしました。

#### ■予定地とまちづくり：地域の新たなシンボル創出

建設予定地は、現スタジアム隣接地の「ト伝の郷（ぼくでんのさと）運動公園」（鹿嶋市）とし、今後、鹿嶋市において都市計画変更を含めた諸手続きや周辺まちづくりの検討を進め、場所の正式決定をしていきます。

新スタジアム開業後は、現スタジアムは解体する方針ではありますが、一部をレガシーとして残すことを含め、今後、周辺まちづくりに着手。広域的な課題である交通渋滞の緩和や、現スタジアム跡地の有効活用についても三者で協議を重ね、365日賑わいを生むエリア形成を具現化してまいります。

## ■今後のプロセス

次年度以降、新スタジアム整備に向けた基本計画の策定や民間活力導入可能性調査を実施しながら、事業費や開業までのスケジュールについて、より精緻な検討を進めてまいります。

## ■本プロジェクトにおける三者の役割（方針）

プロジェクトの実現に向け、三者は以下の役割を担いながら検討を推進していく方針です。

- ・茨城県  
新スタジアムの整備主体として、プロジェクトを主導する立場
- ・鹿嶋市  
まちづくりの観点から、周辺インフラ整備やスタジアムを核とした周辺を魅力あるエリアに発展させるための検討を担う立場
- ・鹿島アントラーズ  
これまでのスタジアム運営で培った知見・経験や民間の自由な発想による収益性向上のための検討を担う立場

## ■各代表者コメント

- ・茨城県知事 大井川 和彦  
「新スタジアム整備に向け、県・鹿嶋市・鹿島アントラーズで方向性を共有できたことを大変心強く感じています。今後は県が主導することにより、地域の新たなシンボルとなるスタジアムの早期かつ確実な整備の実現に向けた検討を進めてまいります。」
- ・鹿嶋市長 田口 伸一  
「新スタジアムを核とした一体的な開発により、この周辺エリアを年間を通じて多くの人で賑わい、魅力あるエリアとするため、茨城県、鹿島アントラーズ及び関係者の皆様と共に一丸となって、このプロジェクトが成功できるよう全力で取り組んでまいります」
- ・株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー代表取締役社長 小泉 文明  
「地域のシンボルを次世代へ繋ぐという茨城県ならびに鹿嶋市の英断に、心より感謝申し上げます。我々は民間の知見を最大限に注ぎ込み、新スタジアムを世界に誇れる地域のプラットフォームに育て上げるべく、全力を尽くしてまいります」

### 【本件に関するお問い合わせ先】

茨城県政策企画部地域振興課 関、白土

TEL : 029-301-2730

Email : chikei3@pref.ibaraki.lg.jp



カシマサッカースタジアム  
新スタジアムプロジェクトに関する記者会見

2026年2月12日

# 県立カシマサッカースタジアムの歴史と課題



- Jリーグが開幕した1993年に日本初の本格的なサッカー専用スタジアムとして建設されて以来、鹿島アントラーズの本拠地として、クラブの華々しい活躍とともに、多くの県民にも愛される地域のシンボル
- Jリーグをはじめ、日韓W杯や東京オリンピックの会場となるなど、県を代表する誘客施設



日本初の本格的なサッカー専用スタジアムとして誕生  
2002年日韓W杯に合わせて増築し、現在の姿に



スタジアムが生み出す熱狂を背に、  
クラブはJリーグ 最多21個のタイトルを獲得



2025年からは「メルカリストジアム」として  
ネーミングライツを導入

一方で…

建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が進む中、  
安全確保のための **維持管理コスト負担(約8億円/年※)**が大きな課題に

# 新スタジアムプロジェクトにおけるこれまでの検討経過



- アントラーズが中心となり、県や鹿嶋市らと共に新スタジアムの整備に向けた調査・検討を推進
- 建設費の高騰など、想定を超える市況の変化も踏まえながら、プロジェクト実現に向けた現実解を模索

## これまでのアントラーズからの主な発表内容

- **2026年**を目途に新スタジアムについての方針を決定
- スタジアムの完成に終わりは設けず、**常に進化するプラットフォーム**として建築
- イベント開催も実施できる機能を有するなど、周辺開発も進めながら**新たなまちのシンボルとして利活用される施設**を目指していく
- 新スタジアムは**鹿嶋市内**での建設検討を進める
- 広域課題である渋滞問題など、課題解決に向けた検証を進めていく

## 直近の取り組み

- ✓ 新スタジアム関係者協議会の開催
- ✓ スポーツ庁「スタジアム・アリーナ改革推進事業」受託
- ✓ 国内外の最新事例研究・視察・関係者ヒアリング
- ✓ 建設事業者やパートナー企業との対話 など



プロジェクト実現のためには、新スタジアムは**県による公設**としつつ、建設費や運営・維持管理にアントラーズなど**民間活力を積極的に導入する**ことを県に対して提案

# 新スタジアムプロジェクトの早期実現に向けて



- 現スタジアムは、特殊な構造である屋根部分をはじめ、多額の修繕費を要する構造であり、今後も老朽化が進む中では、**更なる維持管理費の増加(県民負担の拡大)が危惧**される
- アントラーズなど民間が建設や運営・維持管理に一定の負担をする前提であれば、現スタジアムの維持に多大なコストを費やすより、**新スタジアムを整備する方が県としても中長期的なメリットが大きい**と判断

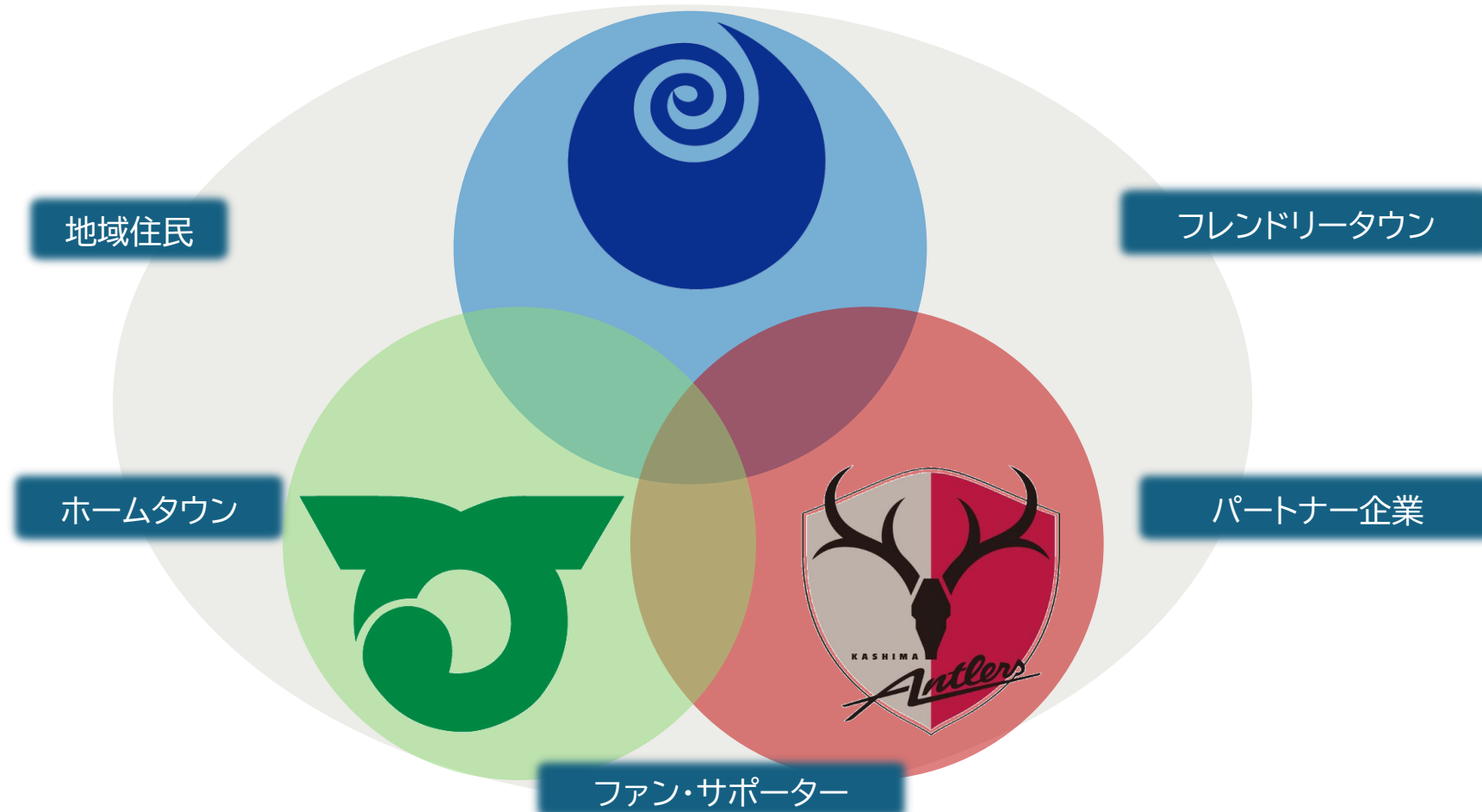


**県が主導し、新スタジアムの早期かつ確実な整備を進める**

# 総合力の高いスタジアムの実現へ



- 新スタジアムは公設で整備するが、建設費の一部や運営・維持管理にアントラーズなど民間活力を積極的に導入し、**総合力の高いスタジアム整備** を実現
- 鹿嶋市も周辺インフラ整備など、**周辺エリアを魅力あるエリアに発展させていく**ための検討を担う



# 新スタジアムの建設予定地



- 鹿嶋市「<sup>ぼくでんのさと</sup>ト伝の郷運動公園」(現スタジアム隣接地)を建設予定地とし、今後、土地所有者である鹿嶋市等とも協議を進め、都市計画変更を含めた諸手続や周辺まちづくりの検討を進める
- 新スタジアム開業後、現在のスタジアムは一定のレガシーを残しつつ解体する方針だが、跡地については**新スタジアムと一体的なまちづくり**を行い、地域の中長期的な発展を目指す



# 今後のスケジュール



- 現時点では**2033年開業を目標**とするが、今後、**基本計画の策定**や**民間活力導入可能性調査**を行い、開業までのスケジュールや事業費の精査等を進めていく

